JCHO-Column

乳がん検診について

福井勝山総合病院
健康管理センター長　土山　智邦

◆乳がん検診の必要性

厚生労働省の発表によると、毎年10万人近くの女性が乳がんに罹患しています。

乳がんは早期であれば治療成績が良く、検診で見つかった乳がんの90％以上が治癒しています。乳がんの予防法がない現状では、乳がん克服には早期発見が唯一の方法です。

しかし、福井県の2017年のデータをみると、1年間に検診で見つかった乳がん患者は75人で、これは県内で発生する乳がん患者全体の約15％にすぎません。つまり、福井県内の乳がん患者は、自覚症状が出てから医療機関を受診しているのです。自覚症状が出てからでは病期が1段進んでいることも多々あります。40歳以上の女性の方は、早期発見のために乳がん検診を是非受けてください。

◆精密検査の通知

乳がん検診は、乳房のエックス線検査です。「要精密検査」の通知がくるとドキッとしますが、「要精検」とは「写真に影があります、それが何であるかを確認してください」というニュアンスです。2017年度、福井県での要精検者は1115人いましたが、96％は「良性の疾患」か「異常なし」でした。要精検の通知が届いても必要以上に不安がらずに医療機関を受診して病変の有無を確認してください。また、乳がん検診で「異常なし」と通知されても、次回の乳がん検診までの2年間を保障するものではありません。乳房の自己触診（セルフチェック）を日ごろから行うようにしてください。乳がんは自分で発見できる癌でもあるのです。

◆乳房構成の通知

今年から市の集団健診では、希望者に乳房の乳腺密度の高さを検診結果と共にお伝えしています。乳腺密度が高いことは病気ではありませんが、乳腺密度が高いと乳房のエックス線写真が白っぽくなり、乳腺に病変があっても診断しにくいことがあります。「乳腺密度が高い方は、自己触診をより丁寧に行ってください」という啓発が通知の目的です。検診結果とともに、ご自身の乳腺密度の高さも確認しておいてください。

勝山公民館　展示コーナー

◆勝山中部中学校の生徒が製作した「かつやま創作和菓子作品展」

生徒が「勝山にあったらいいなこんな和菓子」をテーマにお菓子のサンプルを作りました。

展示期間▶10月15日㈫～24日㈭

◆松村信子さん主宰　勝山アートフラワー会「布花展」

アートフラワーの美しさに魅せられて、造り続けてきた作品をどうぞご覧ください。

展示期間▶10月26日㈯～11月8日㈮

※10月26日㈯・27日㈰は「勝山市総合文化祭」です

問勝山公民館（教育会館1階）　☎88－0800

行ってみよう　湯ったり勝山

「えちぜん鉄道の貼り絵」が完成！

湯ったり勝山で実施している「お出かけサロン」で、参加者が「えちぜん鉄道の貼り絵」を作成しました。

作品は、なんと縦横1メートル以上の大きさで、鉄道は細かくちぎった折り紙で、ひまわりは折り紙を折って作成しました。

作品は、えちぜん鉄道勝山駅の待合室に飾っていただきました。

申・問 地域包括支援センター「やすらぎ」（すこやか内）　☎87－0900

人口の動き

	8月末現在	自然動態			社会動態			9月末現在	月間増減
		出生	死亡	計	転入	転出	計		
男	10,986人	6	−22	−16	9	−12	−3	10,967人	−19人
女	12,081人	8	−20	−12	17	−21	−4	12,065人	−16人
合　計	23,067人	14	−42	−28	26	−33	−7	23,032人	−35人
世帯数	7,991世帯							7,994世帯	3世帯

10月の納税

市・県民税▶第3期
納期限▶10月31日㈭　口座振替▶10月28日㈪

交通事故発生状況

※高齢者＝65歳以上

件数内訳	令和元年9月末	前年比
総件数	286件	−49件
人身事故（うち高齢者）	10件（2）	−3件（−4）
死　者（うち高齢者）	0人（0）	0人（±0）
傷　者	11人	−4人
物損事故	276件	−46件

U うつくしく
I いきる
Enjoy Life in Katsuyama

U・Iターンコラム

市民の皆さんの笑顔のために

吉川（よしかわ）　誠（まこと）さん（52歳）
＝野向町北野津又＝

今回は特別インタビューとして、7月から地域おこし協力隊に就任された吉川さんにお話を伺いました。

吉川さんは、野向町出身で東京都内で働いていましたが、仕事に区切りがついたため、勝山で活動することになりました。

▶勝山に帰ろうと思ったのは？

勝山を意識するようになったのは、仕事の都合で埼玉県の熊谷市に引っ越しした時でした。30代半ばまでは都内や横浜などに住んでいましたが、熊谷市の都会とは違う田舎らしい雰囲気の中で、自分のライフスタイルは田舎の方があっていると思うようになりました。

生まれ育った勝山らしい田舎の雰囲気はとても落ち着きます。

▶帰ってきて感じていることは

勝山に帰ってきて改めて人生を振り返ると、ここまでやってこれたのは、勝山で過ごした学生時代に、学び・体験したベースがあったからこそだと感じています。心から勝山で育ってよかったと思っています。

▶地域おこし協力隊としてどのような活動をしていますか

現在は、未来の時代を担っていく勝山高校の生徒さんに、都会で働き、活躍している先輩方から働くことについて学ぶ「キャリア教育」を実施するために活動しています。また、「ふるさと納税」を通した地域活性にも力をいれていきたいと考えています。

都会で働いていた頃は、仕事に大小はなく、一人でも多くのお客さまの笑顔がみたいという想いで働いてきました。地域おこし協力隊としても、市民の皆さまの笑顔がみれるよう、頑張っていきます。

移住に関するお問い合わせは
商工観光・ふるさと創生課
（市役所2階）へ
☎88－8105

ふるさとを訪ねて
～地域文化を掘り起こそう～ ㉛

市史編纂室　山田　雄造

神明神社の相撲大会

今年の神明神社の相撲大会は9月15日に行われた。現在は昭和29年（1954）の市制施行を記念した市民体育大会、最初の国体開催（昭和43年）の翌年に始まった勝山市地区対抗相撲が合わせて開催されている。この相撲の起源は御前相撲に始まる。享保14年（1729）8月15日、「神明角力之節入道様（小笠原信辰）山田団之丞屋敷二御見物」と史料に見られる。史料上では左義長より古い歴史がある。

神明神社は勝山町の惣社として長い伝統を持ち、祭礼日は旧暦8月14日～15日だった。相撲は興業ではなく、神明社への奉納相撲（湯の花相撲）として行われてきた。一方、小笠原家の鎮守である八幡社（はちまんしゃ）でも同日に相撲が行われていたが、怪我人が多いとの理由で、天明期（1781～89）の末以降は神明神社でのみ行われるようになる。また、八幡社の祭礼日と神明神社の祭礼日が重なっていたため、文化11年（1814）以降は17～18日に固定された。相撲は18日に行われ藩主直々に観覧されたことから御前相撲と称されるようになった。

御前相撲は明治以降も続けられ昭和18年に戦争激化で一旦中止となり、戦後再度復活したが出場者が少なくなったため同43年に中止された。一方戦時下の昭和17年、体力増強の意味もあり、勝山町対抗相撲が開かれるようになった。地区対抗はこの伝統を踏まえており、市体協を中心に同44年から形を変えて相撲大会が復興されたのである。

相撲桟敷席の座席表（大正6年）